

II 小論文対策について

■ その1 新聞スクラップ

* コラムや社説、志望学部に関連した記事をノートに貼り、要約や感想をまとめる。

「A睡眠は時間の浪費だ」との言葉を残した発明王エジソン。眠る姿を見たことがないという逸話が残る人らしい。だが、睡眠は人間に必要不可欠で安眠は多くの人が望む。

▼実際はその通りにいかない。2014年、経済協力開発機構（OECD）が行った国民の睡眠時間に関する調査で日本は2番目に短かった。さらに総務省の調査によると、日本人の平均睡眠時間は約50年前に比べ1時間程度減っている。

▼寝不足にはスマートフォンが関係しているとの見方がある。各機関・団体による調査では寝る前のスマホ利用で寝不足を誘発している可能性が指摘された。それでも眠る時間を削るのが日本人だ。

▼もともと鉄道や消防関係者が使っていた自動起床装置が市販され、人気という。布団の下に置いた袋に送風し、体を起こす仕組みだ。睡眠を無理やり削る企業人の姿が垣間見え、何ともやるせない。

▼やるせないでは済ませられない調査結果もある。環境省の調査によると、3歳児の約7%が睡眠10時間未満の寝不足状態にある。成長ホルモンが分泌される睡眠は子どもにとっても重要だ。睡眠不足が成長にどう影響を与えるか懸念される。

▼長野県で発生したバス事故の原因は不明だが、夜間バスの運転手の過労や睡眠不足はこれまでも改善が求められてきた。時間の浪費と言われようとも、命や健康を守る睡眠は確保したい。

2016.1.18 琉球新報「金口木舌」

- 1 この文章にタイトルをつけるとしたら、どの言葉を入れるか。12文字以内で書いて下さい。

(2015年度 沖縄女子短期大学 AO2次審査 口述試験出題形式)

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

タイトルをつけた後は、要約にチャレンジしてみよう。要約の次は、感想をまとめる練習を！

- 2 下線Aの「睡眠は時間の浪費だ」の意味を60字以内（句読点を含む）で述べなさい。(2015年度 名桜大学 推薦 出題形式)

このような問いは要約に近いパターンである。文章の主旨を理解し、自分の言葉で繋げることができるかが鍵となる。

- 3 感想・意見をまとめる。

知識がないと思いは書けない。だから本や新聞を読もう。



■ その2 過去問から傾向を探る

過去問を早目に知ることは、対策を練る上でとても大切です。ホームページに掲載されている大学もあるので確認してみよう。また、進路室には皆さんの先輩が書いてくれた「受験レポート」や「合格体験記」もあります。いろいろ調べてみよう。

課題文型

- * 課題文を読んで、そのことについての出題に答えていく小論文。
- * 朝日新聞の「天声人語」は出題頻度が高い。



- 課題文をふまえたうえで「あなたの考え」を述べること。
- 課題文を無視してしまつては、減点対象になる。
- 「本文を〇〇字以内で要約しなさい」という形式も、よく出題される。

テーマ型

- * 一つのテーマが与えられ、それについての考えが問われる小論文。

【例】

「最近あなたが気になったニュースを一つあげ、そのことについて考えを述べなさい」
「あなたが挑戦したいと思っていることを一つあげ、述べなさい」
「この大学に入って取り組みたいと思うことを一つあげ、抱負を述べなさい」



- 「一つあげ」と明記されているが、やる気を見せるためにいくつも挙げる。→ 出題の意図から外れるので、減点対象になる。
- 指示に従つて論を展開することが大切。

データ型

- * データを読み込んで、そのうえで自分の考えを述べていく小論文。

【例】

- 「女性の年齢別労働力」の率を国別で表示したグラフが提示され、「日本の特徴を述べなさい」という出題内容



- 問われているのは、「日本の女性の働き方について」の考え。
- データを読み取り、他国との比較を行う。
- その結果、日本の女性だけにある特徴を読み取り、その特徴についてあなたの考えを示す。
- 課題文型と同じで、データを無視することは減点対象になる。



合格論文に近づくには?!

上記のデータ型の問いに対して「女性の労働環境の問題」等について、日頃から新聞を読んでおくと論が深まる。つまり…社会問題に関心を持ち、「考える」という習慣がなければ、合格論文には近づけないのだ！グラフの読み取りにも慣れていたほうがいいね！

考える材料・書く材料

- ① 新聞のコラムや社説から
- ② 読書から
- ③ テレビ番組から
- ④ 人との出会いから
- ⑤ 校内外での活動から
- ⑥ 授業で学んだことから
- ⑦ 日常の権威あるものを疑うことから
(本当にそうだろうか、という視点を持つ。)



■ その3 受験対策実践編

まず、イメージしてほしい。あなたは受験生。

AO入試や推薦入試の面接で、面接官から1枚の新聞記事が手渡される。最初に黙読の時間が与えられる。次に「声に出して読んで下さい」と言われる。最後に「この記事を読んだの感想・意見を述べて下さい」と言われて、面接終了。

さて、自信を持って答えられる自分をイメージできましたか？面接時に渡された初見の記事を読み解く力が、数分間の面接で試されるのである。このような口述試験が課せられる大学もあるので、必要に応じた対策が必要だ。



こうならないために
粘り強く勉強するのみ。

どのような力が試されているのだろう？

語彙力 読む力 話す力 伝える力

面接も小論文も「根拠を示して自分の思いを的確に伝える」という力が求められる。その力は、一夜漬けで身につくものではないので、トレーニングが必要だ。部活動において、基礎体力をつけたり、大会に向けて練習試合をしたりするように、計画的かつ地道な努力が志望校合格につながるのだ！

焦っては始まらない！何をするか？

1. 小論文添削講座を受講し、書いた文章を添削してもらおう

入試で小論文が課せられる3年生は、小論文の個別指導を受けることができる。講座に申し込むことが前提なので、過去問収集など、志望校について詳細を調べておくとうまい。

2. 新聞の社説やコラムを書き写してみる

社説	重要な事件や事故、災害、社会問題や政治・経済の動向などについて新聞社としての考えや意見を展開したもの。
コラム	新聞一面の記事と記事下広告の間に載っている。朝日新聞は「天声人語」、読売新聞は「編集手帳」、毎日新聞は「余禄」というタイトルで毎日掲載されている。世の中の身近なテーマを巧みに捉え、喜怒哀楽のこもった随想のような文章。 ※まずは沖縄の2紙（沖縄タイムス、琉球新報）のコラムをチェックしてみよう。

※小論文をどうやって書いていいのかわからない！という人は、書き写すことから始めてみよう。小論文の型を知ることは、文章上達への第一歩だ。続けることが重要。

3. 小論文対策の参考書を1冊購入する

小論文の参考書は進路室や図書館で借りることもできるが、志望学部の傾向と対策を絞るためにも、自分に合った1冊を持つことをお勧めする。参考書には、小論文を書くための基礎知識をはじめ、現代用語や時事問題等が載っており、隙間時間での勉強にも役立つ。

1冊持つておくことで、受験生を助けてくれるはずだ。

“さあ！！スマホを置いて、参考書を読もう”



■ その4 入学試験問題に挑戦してみよう

平成28年度 名桜大学 国際学群 推薦入学試験 I 期 小論文
(90分/700字以上800字以内/序論・本論・結論の文章構成をとること)

日本に旅行や留学で来た外国人は、日本のおもてなしに感動して帰っていく。

コンビニやファストフード店でも、店員は笑顔で迎えてくれ、何も買わなくても帰る時にあいさつされるなど、気持ちよく滞在できたという。

海外ではそうはいかない。高級店はいざ知らず、庶民の行く店やスーパーなどでは、日本人の基準から見れば機械的に対応される。これなら自動販売機の方がましだという思いをした日本人も多いに違いない。私もある欧米系会社の飛行機に乗った時、人間ではなく「荷物」なのかという扱いを受けたことがある。

しかし、海外の方が親切ではないかと思う時もある。妊婦の方や高齢者が電車に乗ると、我先にと席が譲られる。ベビーカーを押す人を手伝うのは当たり前。私が香港滞在中、大きな荷物を抱えたお年寄りが階段を上り始めたら、後ろから来た若い女性がさっと荷物を取り上げて、上まで運んで待っている風景に遭遇した。後で香港人に聞くと、高齢者がいれば手伝うのが当たり前で、私が驚いたことに逆に驚かれてしまった。先日北京でも同様の光景を見たので、香港人が特に親切ということでもないだろう。

逆に、長く日本に住む外国人の方から、友人やお店の人はとても親切なのに、電車でお年寄りが前に立っても席を譲らない人が多いのは、なぜかと聞かれたこともある。

一つには、日本では内と外に分けて考える習慣がこのような違いを生んでいるのだろう。身内や知り合いに対しては、親切にする。個人的には知らなくても、店にわざわざ来てくれたお客様も一時的な身内として扱う。しかし、通りすがりの人など、自分とは関係のない他人には、目に入らないことにしておこうとする。

また、文句を言われるリスクを取りたがらないというのも一因かもしれない。日本でも、明らかにけがをしている人には席を譲ることを見ることが多い。ただ、妊婦さんなのか、ふくよかな女性なのか区別がつかないケースもある。高齢者でも、どの程度の年齢なら譲るべきかということを考えてしまうこともある。つまり、間違えて相手に嫌な思いをされるリスクを取りたくないということだろうか。

私も、かつて、女性が小銭を落としたので拾ってあげようとしたら、「何するんですか」と怒られて嫌な思いをしたことがある。これも、他人は信用するなど教えられているから、知らない人からの親切に対して疑ってかかる態度が強いからだろう。

どちらの社会が望ましいというわけではないが、海外の人におもてなしの習慣を広めたいと同時に、日本人も一般的な親切という態度を少し身につければ、もう少し気持ちよく暮らせるのではと思う。

山田昌弘「親切さ足りない日本人―「身内」へのおもてなしの一方で―」
(『毎日新聞』2015年9月30日)

設問

筆者の主張(下線部)を実現するためには具体的にどのような方法があるかを考えよ。その際、筆者が指摘する日本人に足りない理由を参考にして、自身の考えを論述せよ。

【原稿用紙に書く前に下書きをしてみよう】

①課題文を読む→②要約をする(筆者の主張を把握する)→③自分の立場(考え)を明確にする→④なぜそう思うのかの理由→⑤具体例(他人の例ではなく自分自身の具体性を帯びた例を挙げる)→⑥自分の主張の展開→⑦結論



■ その5 - ① 「小論文対策ノート」を作ってみよう

練習用

～沖縄タイムス コラム「大弦小弦」用～

ココに選択した記事を → 切る → 貼る



1 この文章の主題（伝えたいこと）は何か？ 要約してみよう。

2 この文章を読んで思ったことを序論・本論・結論の形で書いてみよう。

3 解らなかつた語句や表現を抜き出そう。

☆調べて解決しよう。



■ その5 - ② 「小論文対策ノート」を作ってみよう

練習用

～琉球新報 コラム「金口木舌」用～

ココに選択した記事を → 切る → 貼る



1 この文章の主題（伝えたいこと）は何か？
要約してみよう。

2 この文章を読んで思ったことを序論・本論・結論の形で書いてみよう。

3 解らなかった語句や表現を抜き出そう。

☆調べて解決しよう。